

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397400041		
法人名	(株)福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑西春(Aユニット)		
所在地	愛知県北名古屋市長助寺東三丁目183-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年3月6日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成26年12月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>家庭菜園を利用者様と一緒にやっている。 毎月目標をあげ、チームケアを行っている。また毎月、スタッフによる、勉強会を行っている。</p> <p>社内研修も充実しており、排泄・食事・入浴・美化・記録・エコ・レクリエーション等の勉強会を開催し、スキルアップに努めている。</p> <p>地域交流では幼稚園との交流や、自治会の盆踊りにも参加している。 苑の前には公園もあり、天気の良い日はお茶やお菓子を持ち散歩や季節の草花に触れている。</p>
---

<p>地域行事や運営推進会議での交流を積み重ね、開設4年目を迎え、地域での認知度が広がってきている。年々、利用者の重度化も進んできているが、本人・家族の希望に沿って、医療と連携し安心して終末期を迎えられるような体制作りにも励んでいる。法人内の研修も充実しており、職員は高齢者介護に必要な知識を深め、思いやりを持ちその人らしく過ごせるように優しく接し、玄関前には団楽スペースとしてのイスが確保しており、家族や友人の来訪を利用者が笑顔で迎えている。苑庭では、季節の植物が植えられ、成長や収穫を楽しみ四季を感じている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務所内に基本理念を掲示し、唱和、共有し、日々の業務の中で実践につなげている。	法人理念10カ条と苑独自の理念を、毎朝のミーティングで唱和し、共有している。また、理念に沿った支援となるよう、毎月の目標を決めて日々のケアに取り組み、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会して、回覧板を利用者様と一緒に回し、地域の行事にも参加してつながりをもっている。地域の幼稚園とも交流している。	地域の一員として、お祭りや530(ゴミゼロ)運動などの地域行事へ積極的に参加、今年度は災害時に備えて、地域と協力して、防災マップを作成した。公園が隣接しているので、地域交流の場として活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、自治会の方と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催してサービスの向上に生かしている。	運営推進会議を消防訓練や敬老会と合わせて行い、取り組みを紹介している。また、苑内で発生した事故報告を行い、再発防止に向け意見を伺っている。会議資料については、回覧版に挟み、地域に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の会議や、研修に積極的に参加している。	市主催の地域包括ケア会議や研修に参加し、連携を深めている。市の担当者へは、運営推進会議の参加協力や介護保険更新の件で出向き、取り組みを伝え情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会への実施 夜間のみ施錠、日中は手動でも開けられる	今年度はマニュアルを作成し、マニュアルに沿って研修を行った。言葉による拘束にも注意を払い、言葉遣いの研修やセルフチェックを行っている。玄関やユニットの扉も開放しており、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で勉強し、ミーティングにて報告している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で勉強し、ミーティングにて報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、理解、納得できるまで、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度、生活状況を郵送し、家族からの意見を頂いたり、面会時には報告させて頂いている。	面会時に近況を伝えるとともに、意見・要望を聞くように努めている。3ヶ月に一度「生活状況」を郵送し、家族の意見欄を設け、意見を出しやすいよう工夫し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度の個人面接、月に1度のミーティングにて、反映させている。	個人面談や会議で、意見や要望を聞く機会を設けている。法人研修や親睦会で、代表者や管理者と話しやすい環境づくりに努め、代表者も度々来所し、直接職員に声を掛け、コミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が施設に出向き職員と話す機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実践したり、社外研修にも参加して向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の会議や、研修に積極的に参加して、他事業所の交流があり、サービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時にアセスメントを行い、情報を集め安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望を聞き、要望に沿ったサービスを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向や必要としている支援を見極めて必要なサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、寄り添い、共に暮らしているという関係を築いていけるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは出来るだけ連絡をとりながら共に、本人を支えられる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来苑された時はゆっくり過ごして頂くように努めている。	生い立ちや生活歴などの情報から、利用者の馴染みの関係を把握している。家族の協力で、昔馴染みのお店や美容院に出かけ、近隣の友人の訪問もよくあり、地域との関わりが継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話に入ったり、レクリエーションなどを通じて関わりが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの働きかけはないが、必要に応じて相談、フォローに努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、希望、意向を把握して、困難な場合は家族の情報を基に職員同士で話あっている。	日常生活の何気ない会話の中から、利用者の思いや意向を汲み取り、申し送りや連絡帳で情報共有している。意思疎通が難しい利用者は、利用者の立場になって考え、物事を判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からのアセスメントで情報収集し、サービス利用の経過などの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、日誌、連絡帳、申し送りで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月、1度のミーティングにておいて意見、情報交換を行い、担当職員によるモニタリング、チームカンファレンスにより介護計画を作成している。	毎月、サービス内容に沿って、細かくモニタリングしている。計画書の見直しとして、3ヶ月に1回行い、本人・家族の思いや職員の意見を出し合い、計画書として取りまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、日誌、連絡帳を通し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浴槽に入る事が不自由な方は、社内のサービスを利用し機械浴に取り組んでいる。 □		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、希望があれば、買い物に同行したり、外出の計画をたてて、外に出る機会をつくり、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、協力医の往診を受け、緊急時には家族と連絡を取り、適切な医療を受けれるように、支援している。	本人・家族の希望に沿って、かかりつけ医を選択している。受診については、家族と職員の協力で希望通り、受診できている。苑の協力医の往診が月2回あり、夜間や緊急時の対応も行える体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談し、適切な対応をし、必要なら、受診し、家族に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会時に病院看護師より情報を得て退院のめどが見ついた時は、ご家族・医師・苑と退院に向けての話し合いに参加。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が考える場合は医師・家族と話し、意見を聞き取っている。	年に一度、終末期についてのアンケートを実施し、意向を聞き取っている。昨年度、苑としての看取りを初めて経験し職員の経験値が向上した。今後も本人や家族の希望を尊重し、医療と連携しながら、看取りを行っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署より救命処置の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、消防署立ち合いで避難訓練を行い、2ヶ月に2回、職員と利用者で避難訓練を行っている。	自治会や行政、消防の指導を受け、職員の少ない夜間想定で避難訓練を行っている。民間の災害時支援サービスとの契約をしたり、本社は災害無線や貯水タンクを完備しており、災害時にサポートできる体制になっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて皆で勉強会を行っている。一人、一人の人格を尊重、とプライバシーの確保に努めている。	苑内で「言ってはいけない言葉」について、職員で考え、年長者に対しての言葉使いや接し方に注意している。トイレにはカーテンを引き、入浴時は下半身を隠せるようタオル地のスカートを作り、羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、思いや希望が聞き出せるように努めている。自己決定が出来る声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うように、過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問美容室に来ていただいている。洋服選びは自らされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、提供している。調理や盛り付け、片付けは職員と一緒にやっている。	利用者は役割を持ち、職員と共に準備や片付けを行っている。今年度は、減塩やカルシウム補給に効果がある乳和食に取り組み、バイキング形式や外食も取り入れ、利用者の食欲を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックして記録している。一人一人の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている、必要に応じて介助させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛け、誘導を行いパット、オムツの使用を減らせるように努めている。	排泄チェック表で、利用者の排泄状況を確認し、日常生活の中で、さりげなくトイレ誘導している。トイレの場所は、利用者に分かりやすく掲示し、センサー照明を利用して、夜間でも安全に排泄できるように工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けや牛乳やヨーグルトなどを、提供している。必要に応じて下剤も対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴となっているが、本人の希望をお聞きして対応している。	懐かしい音楽を流し、歌を楽しみながら入浴している。拒否する人の対応としては、無理強いせず、本人の気分に合わせて支援している。法人の協力で、状態に合わせて機械浴の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んでいただいて、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	共用部、台所に薬の内容説明のファイルを設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事に取り組んだり、レクリエーションや外出など、気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には希望があれば行っている。また外出行事の計画を立てて出掛けられるようにしている。	苑の買い出しとして、地域のスーパーへ出かけ、帰りに喫茶コーナーへ立ち寄るのが、利用者の楽しみとなっている。季節に合わせて、外出行事を企画し、家族の協力もあるので毎週外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には苑で管理しているが、買い物に行かれた際は使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族に電話をかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾り物を作ったり、季節の花を飾ったりしている。	開所して4年が経過しているが、室内の隅々まで掃除が行き届いている。フローアールはレクリエーションでの作品を飾ったり、生花を生け季節感を演出している。利用者の好みに合わせて、座布団や専用の椅子を用意し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に、ソファを設置しゆったり過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ってきていただき、居心地よく過ごせるように協力している。	家庭で長く使用していた家具や家族の写真、趣味の品々を持ち込み、住み慣れていた部屋に近い環境にしている。各居室には、交流会を行っている園児からのプレゼントが飾っており、利用者を和ませている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室には、手すりを設置し、床には段差がなくバリアフリーになっている。台所はIHを使用して、苑内で火を使うことはない。		